

(様式2)

平成 24 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1595200013		
法人名	社会福祉法人 桜井の里福祉会		
事業所名	グループホームこいて		
所在地	西蒲原郡弥彦村大字矢作4623番地		
自己評価作成日	平成24年7月30日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/15/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/15/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成24年9月21日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームこいては、和風平屋作りの一軒屋です。入居のご利用者と共用型のデイサービスのご利用者それぞれが協力し合い、食事の下ごしらえなどの家事をされている。そして、一匹の犬と過ごし、ご利用者の大切な存在となっている。ご家族との関わりも大切にし、こいてにいつでも来て頂ける環境を整えている。  
ご利用者の安全で安心した生活づくりは勿論、ご利用者の第二の我が家づくりを目指しております。又、入居されても以前住まわれていた地域の関係を絶やさぬように支援しています。他、ご利用者ひとりひとりの大切な方の法事や月命日に出かけられたり、ご家族と過ごせる時間を大切にしております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームこいて」では、「もうひとつの我が家づくり」「利用者の尊厳と権利」などの理念を掲げ、その理念を実践すべく日々取り組んでいる。利用者の意見を直接聴く「きぼうの会」を定期的に設けて利用者の思いや希望を大切にしている。日常の外出や楽しみごとの支援のほか、母体施設(特別養護老人ホーム)で開催される映画鑑賞会や居酒屋への参加など、法人が複数の事業所を運営しているという点を、より豊かな利用者の生活のために活用している。

職員のチームワーク、コミュニケーションが利用者へのより良いケアにつながると考え、ミーティングをはじめとして日常的に職員間でよく話し合う機会を持ち、利用者の思いの把握や自分達の関わりの問題点などについて率直に意見を交わし合っている。

隣接の社会福祉協議会との連携や運営推進会議を通じて得た情報を活かして地域との関係づくりを深めており、町内会への加入や老人会とのつながりもでき、今後さらに地域との交流が活発に行われると考えられる。家族との関係も良好で、受診時の付添い、行事参加、外出同行など、利用者の生活を共に支えあう協力関係が出来ており、サービス終了後も継続してホームの活動に協力してくれている家族もいる。

利用者の馴染みの場所を撮影して情報収集に活かしたり、避難訓練や行方不明者対応訓練の撮影をして運営推進会議等での検討時に使用するなど、デジタル動画も活用してサービス向上への工夫をしている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に見える所(事務所内)に掲示し、毎朝申し送り時に確認してから業務につき実践につなげている。</li> </ul>	<p>「もうひとつのわが家」となることや個人の尊厳保持、地域密着などの法人理念が掲げられており、ホームでも毎朝のミーティング時にその理念を確認して日々の実践につながるよう努めている。また、法人理念をもとに、利用者や家族の思いに寄り添うこと、地域交流などのホームの重点目標を毎年定めている。年度末のフロア会議で振り返りを行い、反省点を次年度に活かしている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアや小中学校の総合学習を行っている。</li> <li>今年度より、町内会に加入した。</li> <li>買い物や髪を切る際など馴染みの店を利用している。</li> <li>老人会に加入している。</li> </ul>	<p>地域の小・中学校の福祉体験学習やボランティアの受け入れを行っている。買い物や散歩の際など地域の方と日常的に交流している。町内会へも加入し、地域の情報を得ながら祭りなど地域の行事にも参加している。新規利用者が老人会に入会していただき、その方を通じ老人会とのつながりもできた。</p>	<p>積極的に地域とのつながりを持っており、ホームとして地域にできることも模索されている。平成24年度に加入した町内会や、利用者を通じて縁のできた老人会などを活かし、さらに地域交流が深まることを期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>馴染みのスーパーや美容室に出掛ける事で地域の方々に認知症になっても今までの生活が送れる事を理解して頂けるよう努めている。</li> <li>運営推進会議にて、地域の方々に参加して頂く。こいてにおける日常の過ごし方を知って頂く。</li> </ul>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行いそこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議を年6回開催をし、避難訓練に参加して頂いたり、ご利用者への日常の関わり等の報告をし、意見を頂いている。頂いた意見等を職員全員が周知するよう努めている。</li> </ul>	<p>会議では、スライドや動画を活用して利用状況や利用者の日常の様子を報告したり、行方不明対応の訓練について意見をj得るなどしている。会議と同日に避難訓練を行って委員にも参加してもらい、意見をサービス向上に活かしている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉協議会の行事に参加させて頂いている。</li> <li>運営推進会議にも参加して頂いている。</li> <li>入居、退所、事故等の連絡を密にとっている。</li> </ul>	<p>行政担当者からは運営推進会議に参加してもらっており、ホームの入退居状況の報告をしたり、地域行事の情報をもらい利用者の参加につなげるなど日頃から連携を図っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の外に行きたい気持ちを尊重し、ご利用者の了解を得て、付き添わせて頂いている。</li> <li>・法人で行っている研修に参加している。</li> <li>・入口の自動ドアも開いた状態としている。</li> </ul>	法人研修や新任研修で身体拘束について学び、拘束を行わないことを徹底したケアが実践されている。玄関も施錠はせず、利用者の外出には職員が付き添い対応している。職員の対応が拘束にあたらぬかどうかの振り返りを行い、職員間で意識づけを行っている。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人で行っている研修に参加している。</li> <li>・他の職員の言動でおかしいと思った事はすぐに声に出すようにしている。</li> <li>・DSのご利用者は、担当ケアマネと連絡を取り合うようにしている。</li> <li>・ご利用者のご家族からの意見、苦情等を受け付ける窓口を設けてある。</li> </ul>	高齢者虐待防止関連法について新任研修で必ず学んでいる。職員の言動についてお互いに声をかけ合い、気づいたことは率直に話し合っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見制度の資料を常時、用意し説明やお渡し出来るようにしている。</li> </ul>		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時に契約書、重要事項説明書の説明を行い解約又は、改定の時は来所又は、来所出来ない場合は電話にて説明を行い、理解、納得を頂いている。不安や疑問が出来た場合は納得されるまで説明を行っている。</li> </ul>		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会や月1回のご利用者の会を行いご利用者やご家族の意見要望を聞くようにしている。また、事業所の玄関に意見苦情ボックスを設置している。</li> <li>・運営推進会議に役員の方以外にご家族にお誘いしている。</li> <li>・普段の会話や連絡からの意見も朝のミーティングやフロア会議で話し合い反映させている。</li> </ul>	家族からは面会時や介護計画作成時などのほか、運営推進会議と行事を同日に行って委員以外の家族にも会議に参加してもらい、要望を聞く機会としている。出された意見や苦情とその対応については玄関に掲示している。また、利用者同士の話し合いの場として「希望の会」(利用者が命名)を月1回開いて行事や外出の希望や困りごとなどの利用者の意見を聞き、実践につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・フロア会議やミーティング、人事考課で意見や提案を聞く機会を設け反映させている。 ・風土向上委員会設置し、毎年職員が意見を発し反映させている。	フロア会議や朝のミーティング等で職員の意見を聴いている。週1回、法人理事と職員との話し合いの時間も設けられている。法人内に「職場風土向上委員会」があり、勤務に関して職員からアンケートを取るなどし、出された意見は勤務体制の改善などに活かされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事考課によって、個々の努力や実績を把握している。また、職場風土向上委員会の実施するアンケートによって各自が向上心や目標を持つようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・法人階層別研修や園内研修を実施したり、外部研修へ参加する機会の確保や働きながらトレーニングとしていくことをすすめている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・燕市弥彦村グループホーム情報交換会に参加し、職員同士交流研修をおこないサービスの質の向上をさせる取り組みをおこなっている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービスを利用する上でご利用者ひとりひとりの要望をうかがい、こいてで過ごされている時間で「どのように過ごして頂くか」に反映している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の不安な事や要望をしっかりとかがい話し合いながら一緒に解決策を探したり、ご要望にお応えして関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・職員それぞれ他のサービス内容も把握し、その時必要とされているサービスを利用できるよう努めている。 ・ご本人、ご家族の抱えている要望や問題に対し必要に応じてご利用者の生活が充実するようにケアマネに気付いた事を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者が生活の主体となれるような関わりをさせて頂いている。</li> <li>・昔ながらの生活の知恵や家族の味を教わるなど、している。</li> <li>・ご利用者と一緒に日常的な家事や畑、映画等の娯楽を一緒に楽しみご利用者ひとりひとりの趣味、嗜好を知り職員同士で周知し、日常生活につなげている。</li> </ul>		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こいてたよりをとどうして、こいての状況を伝えたり、家族会や行事に参加して頂いている。</li> <li>又、通院時に可能なご家族には協力もして頂いている。</li> </ul>	<p>家族には、ホーム便りや受け持ち職員からの便りで本人の日頃の様子を伝えている。面会が多いが、家族が参加しやすいよう行事は複数日設定するなど配慮しており、行事参加や通院付添いなどで協力を得ている。また、「自宅に帰りたい。」という利用者の希望を叶えたり、入居後も、外出や誕生日の夕食などの機会を持ってもらい、利用者とお過ごし時間を作ってもらっている。</p>	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馴染みのスーパーや床屋に出掛けている。</li> <li>・お友達の方が会いに来て下さったり、会いに出かけている。</li> <li>・入院されているご利用者のお見舞いに行く。</li> </ul>	<p>利用者の希望にそって自宅や自宅周辺のお店など馴染みの場所に出かけている。友人や知人の面会もあり、手紙や電話のやりとりを手伝いながら、関係継続の支援をしている。</p>	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事準備やたたみ物といった家事をご利用者同士が協力分担しておこなっている。</li> <li>・日中過ごされる場所や食事の席も気の合う方同士と一緒に過ごす事ができるようにしている。</li> </ul>		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約が終了したご利用者をイベントにお誘いしている。ご家族には、運営推進会議の委員として参加頂いている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段より担当者を中心に希望や意向をうかがいカンファレンスを行ったりしている。</li> <li>・プラン作成時、ご利用者の意向を十分に聞くように心掛けている。</li> <li>・趣味嗜好をうかがい食事や服装等ご利用者に合った生活が出来るように心掛けている。</li> </ul>	夜勤帯に1対1でゆっくり話を聴く機会を持ったり、表情や動作などのサインから思いや意向の把握に努めている。受け止めた思いは「わたしの姿シート」というアセスメント用紙に記入したり支援経過記録として残し職員間で共有している。また、週1回法人理事を交えたミーティングで、利用者の思いについて気づいたことを話し合っている。	アセスメント用紙として「わたしの姿シート」を利用しているが、定期的な見直しは行われていなかった。利用者の思いの把握には積極的に取り組んでおり、情報共有のための職員間の話し合いも行っているため、今後は、利用者の思いをより一層支援に活かしやすいよう、シートを定期的に見直しして情報を整理することを期待したい。
24	(9-2)	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者やご家族にうかがったり、日々の会話の中から生活歴や生活環境等の情報を得ている。ご友人や近所の方にも来られた際にうかがっている。</li> </ul>	入居時に本人や家族に話を伺っており、サービス利用の経緯については担当の居宅ケアマネジャーに聞いている。入居後も友人や近所の方の面会時に聞き取りをしている。得た情報は「暮らしの情報(私の生活史)シート」に記録している。	
25		<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとりひとりの得意な事、不得意な事を理解し、ご本人の力が発揮できるようにしている。(たたみ者や食事の下ごしらえ等)</li> </ul>		
26	(10)	<b>チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人、ご家族必要な関係者の話をうかがいながら介護計画を作成している。又、必要に応じてカンファレンスをおこないプラン、モニタリングの見直しを行っている。</li> </ul>	利用者の受け持ち職員が利用者や家族の要望を聞き、それを踏まえてカンファレンスで全職員で話し合い介護計画を立てている。モニタリングもカンファレンスで行っている。「外出したい」「できることはさせてほしい」等の利用者自身の要望を反映させた計画が立てられていた。	
27		<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアプランを意識した関わりをおこない、記録に残している。又、必要に応じてカンファレンスをおこなっている。</li> <li>・日常での気づき等個別記録に残し、ご本人の言われた言葉で記録する事で気持ちやその背景等を周知し、日々の生活援助に反映している。</li> </ul>		
28		<b>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居のご利用者のご家族の介護の出来る環境が整い、在宅サービスのご利用となる。</li> <li>・デイサービスの提供時間ではなくご利用者の生活のスタイルに合った時間でご利用して頂いている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>・アコーディオン歌の会としてボランティアの方が来て下さったり、桜井の里や隣の社会福祉協議会のイベントに参加させてもらうなどして安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・地域のかかりつけ医が定期的に往診に来て下さる。又、入居前からのかかりつけ医へ受診されている方もおられる。</p> <p>・ご家族が受診に付き添って下さる場合には、情報提供表を作成しご家族から医療機関に届けて頂く。</p>	<p>家族の付き添いの協力を得ながら入居前のかかりつけ医の受診を継続している。家族の付き添いでは情報提供書を作成し、ホームでの様子がかかりつけ医に伝わるよう支援している。ホームのかかりつけ医の利用者は毎月1回往診があり、電話での相談も受けられる。毎年春にホームかかりつけ歯科医の健診がある。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>・職場内の看護職員が定期的に健康管理の為に来ており24時間オンコール体制をとっている。その為、いつでも利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・ご利用者が入院した際、安心して治療できるように、医療機関に情報を伝えたり、こまめに面会に行き、入院中の様子等、情報交換に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・体調の変化が見られた場合には早めにご家族、医師と協議の上、終末期のあり方について、話あっている。</p>	<p>支援内容や体制についてまとめたターミナルケアの指針がある。利用者の状態に応じて、かかりつけ医の説明を受けながら、家族と終末期の支援のあり方を確認している。職員は終末期のケアについての研修を受けたり、ホームでの過去の看取りのケースをもとにした研修で学んでいる。</p>	
34	(12-2)	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・救急法研修、ケガ急変時の対応研修3年に1回必須の伝達研修を実施している。</p> <p>・事故報告やヒヤリハットが発生したその日にカンファレンスをおこない、職員間で周知し、再発を防いでいる。</p>	<p>全職員が3年に1回、救急法や急変時対応の法人研修を受けている。また消防署で普通救命講習を受け、終了証を受け取った職員もいる。ホームとしても、AED講習やマニュアルを使った急変時の対応の研修を行い、継続的な学びで実践力を養っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の避難訓練をおこない、実践力を付けている。課題、反省、意見を元にそこで出た改善策を考え、災害時に備えている。</li> <li>・避難訓練に社会福祉協議会の職員にも参加をお願い協力体制を築いている(逆もあり)。</li> </ul>	年3回、昼間および夜間の設定で避難訓練を行っている。うち年1回は消防署の立会いのもとで行い、アドバイスを得ている。運営推進会議と同日に行うことで会議の参加者にも訓練に参加してもらい、出された意見を避難経路の確保などの改善につなげている。災害時に備えて備蓄品も用意している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の理念に沿い、ご利用者ひとりひとりを人生の先輩として尊敬する心を持ち、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をさせて頂いている。</li> </ul>	「利用者の尊重」は法人の理念にも掲げられており、管理者・職員は、利用者一人ひとりが今まで生きてこられた人生の重み、家族にとっての大切な人であることなどを意識し、言葉かけや対応を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「きぼうの会」というご利用者の会を月1回開き意見して頂く場を設けている。又、日常の中でもご本人の気持ちを確認する事を心がけ、働きかけている。</li> </ul>		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員側の決まりや都合を優先するのではなく、ご利用者がその時やりたい事を優先して、やって頂くようにしている。食事をご本人の希望される時に召し上がって頂いている。</li> </ul>		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馴染みの美容室に行ったり、ご自分で服を選んで頂いている。お化粧品をしたいと言う希望がある時は、一緒にお手伝いをさせて頂いている。</li> <li>・衣類の買い物も一緒に行かせて頂いている。</li> </ul>		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者ひとりひとりの食べ物の好みを教えて頂いて、毎日の食事やお誕生日、イベントの時の献立の参考にさせて頂いている。</li> </ul>	献立はその日の担当職員が材料を見て利用者の希望も取り入れながら決めている。利用者が希望を出しやすいよう2つのメニューを提示し選んでもらうなどの工夫をしている。買い物や調理、後片付けも利用者と共にっており、ホームの畑で採れた野菜も使って食べる楽しみにつなげている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事量、水分量のチェック表を活用している。</li> <li>・食事が進まない方には、その方が好きな主食を代わりに召しあがって頂いている。</li> </ul>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中は声掛けはしているが、全員は出来ていない。夜間のみ全行っている。</li> </ul>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中は、布パンツを使用して頂き、排泄パターンやご本人が出されるサインに対応し、トイレへお誘いしている。ご自分でトイレへ行けない方でも職員2人に対応させて頂き、トイレへお誘いしている。</li> </ul>	<p>利用者一人ひとりの排泄時間や排泄量を記録し、職員間で情報共有しながら、その方にとって適切な支援の方法を検討し実践している。支援により、紙パンツから布パンツやパットの使用に移行するなど改善が図られている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄表で、ひとりひとりの排便ペースを把握できるようにしている。下剤にはなるべく頼らずに食事や水分の工夫で便秘予防できるように努めている。場合によっては、看護師やかかりつけ医に相談確認をしている。</li> </ul>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回の入浴をして頂けるように入浴表を作成しているが、希望があればいつでも入浴でき、場合によっては午後からも入浴して頂いている。</li> <li>・仲の良いご利用者同士入浴もされている。</li> </ul>	<p>時間や回数は利用者の希望に添って対応し、夜間の入浴希望や同性介助の希望にも応じている。浴室が広いため仲の良い利用者同士の入浴も楽しまれている。「汗を流したい」などの希望にも臨機応変に対応している。入浴に気持ちが向かない方には、声かけのタイミングを見計らったり、対応する職員を変えるなど気分転換を図り、気持ちよい入浴につなげている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間に関係なく休みたい時に休んで頂けるよう配慮している。休む場所も居室、畳スペース、ソファと様々です。夜間も消灯時間に決まりはなく職員と一緒に遅くまでテレビを見て過ごされる方、編み物等の裁縫をし過ごされている。</li> </ul>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人のお薬ケースを用意し、ふたの裏にお薬の情報や用法の一覧表を貼り、確認をしながら服薬のお手伝いをさせて頂いている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日常生活の中でひとりひとりの力を活かせるように、無理強いする事なく支援している。 ・おやつ時間にこだわらず、ご自分で購入されたお菓子を好きな時に召し上がって頂いたり、読書や編み物等の趣味の時間も大切にしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご利用者が外出を希望された時は、可能な限り外出している。車イスの方でもリラックスして頂けるように足湯にお出かけしたりしている。又、お誕生日にはご家族も一緒に外食もされている。	月ごとの行事担当職員が利用者の声を参考にして外出計画を立てている。また、個別の外出にも可能な限り希望時に対応している。家族の協力も得て、自宅や外食等希望の場所へも外出することができている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・各居室に金庫を設置し、ご本人や家族管理をして頂いている。 ・ご本人が自由に使えるお小遣いもご家族にお願いして持って来て頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご自分で電話をかける事が難しい方でも希望があればお手伝いをさせて頂き電話をされている。又、遠方のご家族から荷物が届いた時はご本人が電話をされている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居間、食堂の仕切りがなく開放的な空間になっています。廊下には、日常風景や行事の写真を掲示し、思い出話に花が咲く事もあります。	気の合う利用者同士で過ごせるよう食事の席以外にソファーや畳のスペースを設けている。ウッドデッキや玄関にも居心地よく過ごせる場所があり、気分転換や談笑、作業など目的や気分に合わせて過ごす場所を選択できるよう配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用スペースの他に少人数で休める畳スペースがあります。又、事務室内にある宿直室もご利用者の休めるスペースとして活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使い慣れた家具や馴染みの物を持って来て使用して頂いている。思い出の写真やご自分の作品を飾られている方もおられ、居心地よく過ごせるよう努めている。</li> </ul>	<p>入居時に自宅で使用していた家具や小物を持ち込んでもらい、居室作りを行っている。家族からの手紙や写真を掲示したり、手芸作品を飾るなどして温かい空間作りに努めている。利用者の趣味である裁縫や編み物の道具を居室において好きな時に楽しめるよう準備している。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室前には、表札だけでなくご自分の顔写真を張っておられる方もおられます。</li> <li>・当日の勤務者の写真を掲示してご利用者にその日の勤務者を知って頂いている。</li> <li>・外出した時の写真を見て思い出話に花が咲く事もあります。</li> <li>・日めくりカレンダーを作成し、日付けが確認できるようにしています。</li> </ul>		